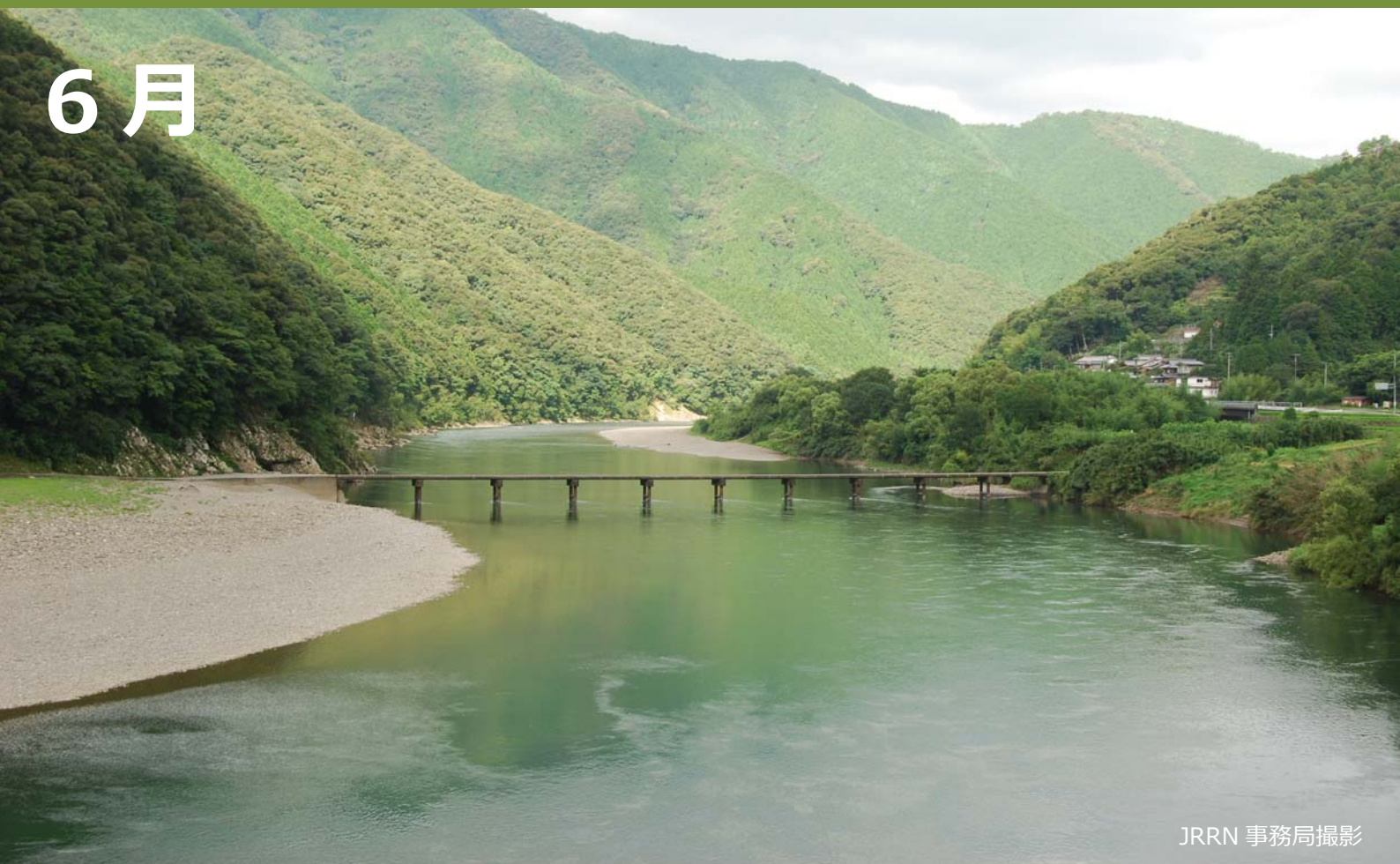


6月



JRRN 事務局撮影



## あの日のあの川 リレー日記 ～第56話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第56話主人公 鎌田一輝

(筑波大学大学院 システム情報工学研究群 構造エネルギー工学学位プログラム 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：埼玉県芝川)

### 「ちっぽけな自分」

いつのこと？： 小学校3年

どこの川？： 四万十川

皆さんこんにちは。榎本さんよりバトンを受け取りました筑波大学白川研究室の鎌田です。川についての思い出をといいますが、自分はインドア派といいますか、幼少期に、森や川といった自然の中で遊んだ経験があまりなく、川についての記憶といった小さい頃、学校に行く途中で川の横を通り、雨の日の後なんかはいつもよりたくさん水が流れているなあと思う程度でした。そんな自分ですが、なんとか記憶を掘り起こしてみたいと思います。

小学三年生の時、四国に家族で旅行に行き、四万十川を訪れました。当時、川といたら近所の小さい川くらいしか知らなかったのですが、初めて四万十川を見たときは衝撃でした。人工物に抑え込まれた川ではなく、自然として存在する川に対して小学生ながら畏怖の念を抱いたのです。屋形船に乗る機会があったのですが、実際に川の上を進んでみると川の流りがゆるやかなことに驚きました。また、清流といわれてはいましたが、意外と川底が見えるようなことはなかったことを覚えています。行った場所が良くなかったのでしょうか。肝心の川についての記憶はこれくらいで、当時宿で食べたカツオのたたきなどの味は詳しく覚えているのがなんとも言えないところです。

それからしばらく時がたち、高校生になり山岳部に入部しました。なんやかんや自然が好きだったというのもあると思います。山登りしている途中で沢に出会い、水のせせらぎを聞いてリラックスしたり、「これが本物の湧き水じゃー」と直飲みしたりしました。とって冷たかったり、案外冷たくなかったり、岩の周りに生えているコケに気を付けながら歩いたり。山登りの最中に川に出会うと、テンションがあがり、とても楽しかったことを覚えています。山岳部に入ってからこんな感じで、必然的に自然の中に身を置く機会が増えましたので自然と自分の対比をすることが多くなりました。自分という存在が山や川に触れることでなんとなく感化されるという普段、町にいと感じにくい経験をしたのですが、最初にしたのは四万十川だったと思います。

それから現在は、治水対策の評価というような研究をしておりますが、人間が川とどう付き合ってきたのかということ調べるのはとても面白いです。これからの時代、川という自然を人工物で抑え込んでいけるのでしょうか。大自然の中で感じた自分という人間のちっぽけさと、川の周りに建てられた堤防を比べると、人間の技術の進歩なのかなんなのか科学の功罪といいますか、えもいわれぬような気持ちに襲われます。これからは、素敵な自然と人間生活とがうまく調和できるような社会にしていきたいです。自分にできることってあるのでしょうか。よく考えておきます。急ですが、以上になります。

どうもありがとうございました。

(次は早川由里子さんにバトンを託します)